



原油続伸 市場予想下回るCPIで

12日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は続伸した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の5月物は前日比1.73ドル（2.1%）高の1バレル83.26ドルで取引を終えた。一時は83.53ドルと昨年11月以来の高値を付けた。12日発表の3月の米消費者物価指数（CPI）上昇率が市場予想を下回り、米連邦準備理事会（FRB）の利上げが景気を冷やすとの見方が後退し、原油先物に買いが入った。

CPIの上昇率は前年同月比5.0%と2月（6.0%）から減速し、ダウ・ジョーンズ通信がまとめた市場予想（5.1%）を下回った。インフレ基調を測る上で重視される前月比の上昇率も0.1%と市場予想（0.2%）以下だった。利上げの長期化で景気が一段と悪化するとの見方が薄れ、原油先物の買いにつながった。

ロイター通信によれば、米エネルギー省のグランホルム長官は米政府が戦略石油備蓄を近く補充する意向だと述べた。補充が必要を支えるとの見方も原油先物の買いを誘った。



九州電力、石炭火力でアンモニア混焼 同社初の試験

九州電力は7日、石炭火力の苓北発電所1号機(熊本県苓北町)で石炭にアンモニアを混ぜて燃やす試験を11日から実施すると発表した。アンモニア混焼試験は同社初となる。電源の低・脱炭素化の一環で、アンモニアは燃やしても二酸化炭素(CO2)を排出しない。今秋からは石炭火力の松浦発電所2号機(長崎県松浦市)でも同様の試験を実施する。

苓北発電所1号機での混焼試験は既存設備にアンモニア用のバーナーや配管を取り付け、石炭にアンモニアを0.1%混ぜて燃やす。燃料の燃焼状態や設備への影響を確認することで、2030年までにアンモニア20%混焼に向けた技術を確立したい考えだ。

九電は50年までに事業活動を通じて排出されるサプライチェーン全体の温暖化ガスを実質ゼロにすることなどをめざしている。



コマツ、建機にバイオ燃料

コマツの小川啓之社長はNIKKEI GXの取材で、建機の燃料に「HVO（水素化植物油）」などバイオ燃料の活用を始めることを明らかにした。まず欧州で工場から出荷する際の燃料に採用し、顧客にも活用を呼びかける。大型建機の電動化には時間がかかるとみて、当面はハイブリッド（HV）建機なども含めた「つなぎ」の技術に注力することで脱炭素に取り組む。

バイオ燃料は既存のエンジンでそのまま使えるのが特徴だ。「（HVOを燃料として使っても）問題がないという確認はとれている。4月中旬からドイツの工場では出荷時に使う」と小川社長は説明した。

HVOは植物由来のため、通常の軽油に比べて最大で9割の二酸化炭素（CO2）削減につながるとコマツはみている。コストは高くなるが、それでも欧州では軽油の1.2～1.5倍程度にとどまるという。

HVでは2022年にインドネシアなどで30トン級の油圧ショベルの投入を始めた。車体を左右に旋回させる際の減速時に発生するエネルギーを蓄電装置にためて再利用するため、燃費を通常の機械より2～3割改善できる。東南アジアで年間100台の販売を目指している。大型機種の方が燃費の改善効果も大きくなるため、50トン級のHVショベルの開発にも取り組んでいる。



銀行破綻を警戒「利上げ停止論」も 3月FOMC議事要旨

米連邦準備理事会（FRB）は12日、3月21～22日に開いた米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨を公表した。米地銀の相次ぐ破綻などで金融システム不安が高まったのを踏まえ、複数の参加者が利上げの見送りを検討していたことを明らかにした。

この会合は米銀シリコンバレーバンク（SVB）の破綻やスイスの金融大手UBSによるクレディ・スイスの救済買収など、3月半ばにかけて銀行業界の混乱が生じた後に開いた。FRBは信用不安で資金繰りが悪化した銀行向けに新たな融資枠を設け、金融システムの安定に努めるなかで利上げを続けるかどうかの決断を迫られていた。

複数の参加者は利上げを見送ることで、銀行業界の動向やこれまでの金融引き締めの影響について「評価する時間をより多く確保できる」と指摘した。だが、これらの参加者はFRBなどによる金融安定の取り組みが「銀行業界の状況を落ち着かせ、短期的な経済活動やインフレのリスクを軽減するのに役立っている」とも評価した。

このため、FOMCは最終的に全会一致で0.25%の利上げ実施を決めた。利上げは9会合連続で、政策金利の指標であるフェデラルファンド（FF）金利を4.75～5%にした。

参加者は銀行が融資に慎重になり与信環境が引き締まることで「総需要を圧迫し、インフレ圧力の軽減につながる可能性がある」と言及した。不確実性の高まりが家計の心理を冷やして消費を抑制したり、企業が設備投資や新規雇用を絞ったりする可能性についても意見を交わした。FRBの事務方の経済予測では、金融不安の影響を勘案し、2023年後半から緩やかな景気後退が始まるとの見通しを示した。

3月会合におけるFOMC参加者の見通しでは、23年末の政策金利予測（中央値）が5.1%になり、22年12月の前回予測から変わらなかった。米銀破綻が起きる前は経済・物価指標が軒並み予想を上回ったことから、政策金利の到達点の予測も引き上げられるとの見方が出ている。多くの参加者は金融不安の影響を考慮し「十分に引き締めのとみる政策金利の水準を（当初の想定より）引き下げた」という。

3月時点のFOMCの中心シナリオでは、残り1回0.25%の利上げ実施を想定する。米金利先物市場は12日午後時点で、5月2～3日開催の次回会合で利上げに動く確率を7割程度と見込む。足元では利上げの障壁となる金融システムへの過度な不安が和らぐ一方、インフレや労働市場の過熱が落ち着くサインも出てきた。利上げの継続か打ち止めかで市場の思惑が揺れる状況が続きそうだ。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	2/28～3/6	82.68	1.30	137.30	1.38	71.40	1.83
	3/7～3/13	81.98	▲0.70	137.19	▲0.11	70.73	▲0.67
	3/14～3/20	75.35	▲6.63	134.47	▲2.72	63.73	▲7.00
	3/21～3/27	74.83	▲0.52	132.19	▲2.28	62.21	▲1.52
	3/28～4/3	78.69	3.86	133.23	1.04	65.94	3.73
	4/4～4/10	84.79	6.10	132.96	▲0.27	70.90	4.96
水曜日～ 火曜日	3/1～3/7	83.13	1.91	137.26	0.84	71.76	2.07
	3/8～3/14	81.23	▲1.90	136.60	▲0.66	69.79	▲1.97
	3/15～3/21	74.20	▲7.03	134.54	▲2.06	62.79	▲7.00
	3/22～3/28	75.41	1.21	132.08	▲2.46	62.64	▲0.15
	3/29～4/4	79.53	4.12	133.63	1.55	66.84	4.20
	4/5～4/11	84.69	5.16	133.13	▲0.50	70.91	4.07